

201220039B

厚生労働科学研究費補助金
第3次対がん総合戦略研究事業

がんの医療経済的な解析を踏まえた患者負担の
在り方に関する研究

平成22～24年度 総合研究報告書

研究代表者 濃 沼 信 夫

平成25(2013)年3月

厚生労働科学研究費補助金
第3次対がん総合戦略研究事業

がんの医療経済的な解析を踏まえた患者負担の
在り方に関する研究

平成22～24年度 総合研究報告書

研究代表者 濃 沼 信 夫

平成25(2013)年3月

目 次

I. 総合研究報告

がんの医療経済的な解析を踏まえた患者負担の在り方に関する研究

濃沼信夫 1

II. 研究成果の刊行に関する一覧表 21

III. 研究成果の刊行物・別刷 31

資料 155

I . 総合研究報告書

厚生労働科学研究費補助金（第3次対がん総合戦略研究事業）
総合研究報告書

がんの医療経済的な解析を踏まえた患者負担の在り方に関する研究

研究代表者 濃沼 信夫 東北大学大学院医学系研究科 教授

研究要旨

【目的】がん対策基本法には、がん医療の均てん化と患者の意向の尊重が掲げられ、患者の身体的、精神的な負担に加え、経済的な負担にも適切に対応することが要請されている。本研究では、高額で長期にわたる治療が必要な場合の患者負担の実態を把握し、負担のあり方とその軽減に向けた合理的な対策を検討する。

【方法】大学病院、がんセンターなど全国の中核的がん診療施設において、各施設の倫理委員会の承認のもと、がん患者およびがん診療医を対象に自記式調査を実施した。

【結果】初年度の調査では、がん患者 3,277 名より回答を得た。固形腫瘍患者の自己負担額をみると、分子標的治療を受ける患者は 122 万円、それ以外の薬物治療を受ける患者は 66 万円であり、分子標的治療を受ける患者で負担（特に外来分）が大きかった医師調査（回答 1,176 名）で、経済的理由で治療を変更・中止した患者は、医師 1 人当たり 1 ヶ月に、入院では 1.5 人、外来では 1.6 人である。経済的な理由による治療変更の内訳は、固形がんでは、予定した薬剤の変更が 56%、無投薬が 16%などであり、変更した事例は分子標的治療が半数を占める。

平成 23 年度の調査（n = 3,204）では、患者の自己負担年額は平均 86 万円である。その内訳は、直接費用として入院が平均 29 万円（該当者 68%）、外来が 26 万円、交通費が 6 万円、間接費用として健康食品・民間療法が 21 万円（同 32%）、民間保険料が 38.0 万円（同 55%）などである。一方、償還・給付額は平均 62 万円である。その内訳は、民間保険給付金が平均 114 万円（該当者 43%）、高額療養費が 24 万円（同 48%）、医療費還付が 6 万円（同 22%）である。自己負担額から償還・給付額を差し引いた、患者の実質的な経済的負担は平均 24 万円である。年間の入院期間を病期別にみると、stage I 21 日、II 23 日、III 37 日、IV 44 日であり、通院回数は stage I 14 回、II 19 回、III 22 回、IV 25 回であり、入院日数、通院回数は重症化とともに増加する。

平成 24 年度の調査では、回答数は患者 3,028 件（回答率 62%）、医師 4,087 件（同 83%）であり、両者（負担状況と診療情報）のデータリンクージュにより解析を行った。自己負担額（年間）は平均 92 万円、病期別に平均自己負担（間接費用を含む）年額をみると、stage I 69 万円、II 67 万円、III 91 万円、IV 114 万円である。回答者の 62% は経済的な困りごとがあるとし、その内容は医療費、貯蓄の目減り、収入の減少などである。30% はがん罹患によって収入が減少しており、減少割合は 2 割が 20%、3 割が 19%、1 割が 14% などである。診断時に就業している割合は 51% で、がんの仕事をやめたと思われる者の割合は 32% で、これを病期別にみると stage I 24%、II 26%、III 34%、IV 41% と、重症化するにつれて高くなる。

【結論】患者の経済的負担は、がんの部位、病期、などで大きく異なっており、それぞれの状況に応じた負担の軽減策、就労支援策を講じることが重要と考えられる。

研究分担者

濃沼 信夫 東北大学大学院医学系研究科
教授

石岡千加史 東北大学加齢医学研究所
教授

植田 健 千葉県がんセンター
泌尿器科 部長

江崎 泰斗 九州がんセンター
消化管・腫瘍内科 部長

大辻 英吾 京都府立医科大学
消化器外科学 教授

岡本 直幸 神奈川県立がんセンター臨床
研究所 がん予防・情報学部
部長

金倉 譲 大阪大学大学院医学系研究科
血液・腫瘍内科 教授

佐々木康綱 埼玉医科大学、昭和大学
腫瘍内科 教授

執印 太郎 高知大学医学部
泌尿器科学 教授

曾根 三郎 徳島大学大学院
ヘルスバイオサイエンス研究部
呼吸器内科学 教授

武井 寛幸 埼玉県立がんセンター
乳腺外科 科長兼部長

直江 知樹 名古屋大学大学院医学系研究科
血液・腫瘍内科学 教授

西岡 安彦 徳島大学大学院
ヘルスバイオサイエンス研究部
呼吸器内科学 教授

古瀬 純司 杏林大学医学部
内科学腫瘍内科 教授

堀田 知光 名古屋医療センター
院長

A. 研究目的

がん対策基本法にはがん医療の均てん化と患者の意向の尊重が掲げられ、患者の身体的、精神的な負担に加え、経済的な負担にも適切に対応することが要請されている。また、患者中心医療の要請、技術革新の進展、医療資源の制約などから、臨床的とともに経済的根拠に基づくがん医療を実践することが重要となっている。さらに、「がん対策推進基本計画」では、療養する患者が安心して働き暮らせる社会の構築が謳われる。本研究では、高額で長期にわたる治療が必要な場合の患者負担の実態を把握し、負担のあり方とその軽減に向けた合理的な対策を検討する。

B. 研究方法

初年度は、大学病院、がんセンターなど全国の42施設において、主に薬物治療を受ける患者を対象に自記式調査を実施した。また、日本臨床腫瘍学会会員等でがん薬物治療を担当する臨床医を対象に、郵送とインターネットを用い

たアンケート調査を実施した。

平成23年度は、大学病院、がんセンターなど全国の40施設において、がん患者に家計簿や領収書を見ながら、がん医療にかかる支出額等を記入してもらい自記式調査を実施した。また、患者の同意の下に医師からの診療情報をこれに加えて解析した。

平成24年度は、全国の中核的がん診療施設39施設で、がん患者を対象に自記式調査を実施した。また、患者の同意を得て、担当医から診療情報の提供を受け、患者調査（負担状況）と医師調査（診療情報）のデータリンケージにより解析を行った。

（倫理面への配慮）

アンケート調査は東北大学、および各施設の倫理委員会の承認を得て実施した。平成23年、24年の調査では、患者回答は無記名で郵送とし、連結可能匿名化された診療情報は、患者の同意を得て担当医から提供を受けた。

C. 研究結果

初年度の調査では、がん患者 3,277 名より回答が得られた (回答率 47.3%)。固形腫瘍患者 (n=2,114) の部位は、乳房 48%、肺 20%、大腸 11%、肝臓 8%、前立腺 7%などである。平均自己負担額 (年額) は 79 万円であり、内訳は直接費用が、入院 32 万円 (該当患者の割合 65%)、外来 36 万円 (同 97%) などである。間接費用は、健康食品・民間療法 21 万円 (該当者 39%)、民間保険料 16 万円 (同 61%) などである。償還・給付額は平均 50 万円で、内訳は、高額療養費 27 万円 (該当者 31%)、医療費還付 7 万円 (同 33%)、民間保険給付金 99 万円 (同 40%) である。分子標的治療を受ける固形腫瘍患者 (n=494) の自己負担額は 122 万円、償還・給付額は 65 万円である。

一方、造血系腫瘍患者 (n=546) の病名は、慢性骨髄性白血病 41%、悪性リンパ腫 41%、多発性骨髄腫 13%、急性骨髄性白血病 3%などである。平均自己負担額は 109 万円、償還・給付額は 65 万円である。分子標的治療を受ける造血系腫瘍患者 (n=407) の自己負担額は 116 万円、償還・給付額は 62 万円である。医療費の支払いは、固形腫瘍、造血系腫瘍それぞれで、「収入でまかなった」が 58%、55%、「預貯金を取り崩した」が 57%、57%、「借金をした」が 8%、10%である。借入先は、「家族・親族」が各 79%、77%、「金融機関」が 17%、16%である。

医師調査の回答は 1,176 名 (回答率 19.7%)、臨床経験は平均 17.8 年、男性が 88%である。経済的理由で治療を変更・中止した患者は、医師 1 人当たり 1 ヶ月に、入院では 1.5 人、外来では 1.6 人である。経済的な理由による治療変更の内訳は、固形がんでは、予定した薬剤の変更が 56%、無投薬が 16%などである。変更した事例 (n=399) は、分子標的治療が半数を超える。変更が多いのは、固形癌ではベバシズマブ、トラスツズマブ、セツキシマブ、ゲフィチニブ、パニツムマブ、部位では大腸、肺 (転移含む)、

乳房などである。

がん患者の経済的負担の軽減について優先度の高い項目は、「治療の費用や負担軽減について正確な情報を提供する」、「高額療養費制度の自己負担限度額を引き下げる」、「就労・雇用継続・復職を支援する」などである。

平成 23 年度の調査では、患者の回答数は 3,204 件 (回答率 53.4%) である。医師調査 (臨床経過) とのデータリンクージュを行った患者 2,089 人の内訳は、男 40%、女 60%、平均年齢 63.3 歳である。初回診断時からの平均経過期間は 30.3 ヶ月、病期は stage I 33%、II 27%、III 16%、IV 21%、再発は 11%である。医療保険の自己負担割合は 3 割 70%、1 割 27%などである。48%が高額療養費を利用し、69%は経済的な困りごとがあり、その内容で多いのは医療費、貯蓄の目減り、収入の減少である。また、60%は社会面での困りごとがあると回答し、内訳で多いのは仕事 (43%)、趣味・生き甲斐 (30%)、定期的受診の煩わしさ (28%) である。

患者の自己負担年額は平均 86 万円である。その内訳は、直接費用として入院が平均 29 万円 (該当者 68%)、外来が 26 万円、交通費が 6 万円、間接費用として健康食品・民間療法が 21 万円 (同 32%)、民間保険料が 38.0 万円 (同 55%) などである。一方、償還・給付額は平均 62 万円である。その内訳は、民間保険給付金が平均 114 万円 (該当者 43%)、高額療養費が 24 万円 (同 48%)、医療費還付が 6 万円 (同 22%) である。自己負担年額から償還・給付額を差し引いた、患者の実質的な経済的負担は平均 24 万円である。

部位別にみると、自己負担額と償還・給付額はそれぞれ、胃がん (n=158) では 72 万円、66 万円、大腸がん (n=244) では 93 万円、64 万円、肺がん (n=302) では 110 万円、68 万円、乳がん (n=773) では 69 万円、50 万円、前立腺がん (n=102) では 49 万円、25 万円である。

病期別に平均の自己負担年額をみると、I

61万円、Ⅱ 68万円、Ⅲ 98万円、Ⅳ 128万円である。重症化するにつれ、入院・外来の費用とともに、健康食品や民間療法の支出も増える傾向にある。

年間の入院期間はⅠ 21日、Ⅱ 23日、Ⅲ 37日、Ⅳ 44日であり、通院回数はⅠ 14回、Ⅱ 19回、Ⅲ 22回、Ⅳ 25回である。治療法別にみると、入院期間は、手術 28日、化学療法 40日、放射線治療が 33日、その他 17日であり、通院回数は、手術 19回、化学療法 25回、放射線治療 29回、その他 18回である。

平成 24 年度の調査では、回答数は患者 3,028 件（回答率 61.6%）、医師 4,087 件（同 83.1%）である。医師調査（臨床経過）とのデータリンケージを行った患者 1,933 人の内訳は、男 43%、女 57%、平均年齢 63.8 歳、再発 12% である。初回診断時からの平均経過期間は 30.7 ヶ月、病期は stage I 31%、Ⅱ 27%、Ⅲ 15%、Ⅳ 23% などである。医療保険は国保 50%、組合健保 21%、後期高齢者医療制度 17%、協会けんぽ 10% などであり、自己負担割合は 3 割 69%、1 割 30% などである。回答者の 62% は経済的な困りごとがあるとし、その内容は医療費、貯蓄の目減り、収入の減少などである。30% はがん罹患によって収入が減少しており、減少割合は 2 割が 20%、3 割が 19%、1 割が 14% などである。63% が高額療養費の受領委任払い制度を利用している。

自己負担額（年間）は平均 92 万円で、内訳は入院 28 万円（該当者 76%）、外来 24 万円（同 98%）、健康食品等 20 万円（同 36%）民間保険料 36 万円（同 62%）などである。償還・給付額は平均 61 万円で、内訳は民間保険給付金 105 万円（該当者 49%）、高額療養費 29 万円（同 25%）、医療費還付 9 万円（同 33%）である。自己負担額から償還・給付額を差し引いた、患者の実質的な経済的負担は平均 21 万円である。病期別に平均自己負担（間接費用を含む）年額をみると、stage I 69 万円、Ⅱ 67 万円、Ⅲ 91 万円、Ⅳ 114 万円である。経済的理由による治療へ

の影響があったと回答した者は 5% で、保険のきかない検査等が最も多く、次いで放射線治療、化学療法、手術などである。

がん罹患で家族関係に影響があったとする者の割合は 48%（ $n=2,724$ ）で、その内訳は「気をつかうようになった」58%、「関係が強固になった」51%（複数回答）などが多い。診断時に就業している割合は 51%（常勤 76%、非常勤 24%、 $n=2,737$ ）で、がんで仕事をやめたと思われる者の割合は 32% で、これを病期別にみると stage I 24%、Ⅱ 26%、Ⅲ 34%、Ⅳ 41% と、重症化するにつれて高くなる。がん罹患による仕事の変化については（ $n=907$ ）、「やむをえない」36%、「継続したかった」27% などである。

D. 考察

固形腫瘍患者の自己負担額をみると、分子標的治療を受ける患者は 122 万円、それ以外の薬物治療を受ける患者は 66 万円である。内訳では外来医療費が、分子標的治療で 75 万円、それ以外で 24 万円であり、分子標的治療を受ける患者の外来分の負担が大きいことがわかる。償還・給付に関し、分子標的治療を受ける患者は、高額療養費の戻りが大きいのが、負担額と償還額との差は 57 万円と、分子標的以外の 21 万円に比べて大きい。

造血系腫瘍の自己負担額は、分標的治療を受ける患者は 116 万円、それ以外の薬物治療を受けてる患者は 85 万円である。外来医療費は、分子標的治療が 67 万円、分子標的以外が 15 万円である。固形腫瘍と同じく、造血系悪性腫瘍でも、分子標的治療を受ける患者の外来分の負担が特に大きいことがわかる。

医療費の支払いは、分子標的治療を受ける固形腫瘍患者の 67%、分子標的治療を受ける造血系腫瘍患者の 60% が預貯金の取り崩しによっている。平均年齢は 60 歳を超え、収入は年金に限られる患者が多いためと考えられる。

分子標的治療を受ける患者に対する経済的負担についての説明をみると、「十分な説明を受

けた」は、固形腫瘍患者で 36%、造血系腫瘍患者 47%にとどまる。分子標的薬は自己負担額も高額になる場合が多く、経済面の説明も丁寧になされる必要があるが、現状は十分とは言えない。

医師調査では、がん患者の経済的負担軽減について優先度の高い項目として、「治療の費用や負担軽減について正確な情報を提供する」を挙げた医師が最も多かった。ASCO (アメリカ臨床腫瘍学会)は費用を検討することは質の高いがん医療の重要な要素であるとし、がん臨床医が適切な臨床判断が行えるよう、費用についての患者・家族との対話を促している。

患者調査(負担状況)と医師調査(診療情報)のデータを突合することで、病態ごとの経済的負担の実態をより正確に把握することが可能となった。重症化するにつれ、入院、外来の自己負担額に加え、健康食品や民間療法の支出も大きくなる傾向にある。入院日数、通院回数も重症化とともに増加する。

年間の入院日数、通院回数は、例えば、乳がん患者では、各 14.1 日、20.4 回である。がん患者の就労促進という観点からは、入院は土・日曜を 4 日含み、通院は 1/2 日の休業とすると、乳がん患者の場合、年間の入院・通院日数は概ね年次有給休暇(法定最低付与 20 日)に匹敵する。経済的負担の軽減策は病態(がんの部位や病期)に応じて検討される必要があると考えられる。

E. 結論

薬物治療を受ける造血系腫瘍の患者、分子標的治療を受ける固形腫瘍、造血系腫瘍の患者の自己負担額は相当に重いことが明らかになった。加速する技術進歩に伴って重い経済的負担に耐えられないがん患者の割合は今後増加する恐れがあり、その対策は急務と考えられる。

がん分野の技術進歩は今後ますます加速され、患者の大きな福音となると期待されるが、同時にがん医療の高額化も深刻の度合いを増

す。技術進歩をあまねく患者に届けるには、その経済的負担を最小化することが欠かせない。患者の経済的負担は、がんの部位、病期、などで大きく異なっており、それぞれの状況に応じた負担の軽減策、就労支援策を講じることが重要と考えられる。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

2012 年度

- 1) Koinuma N: The burden of cancer in Japan. Proceedings, American Association for Cancer Research Annual Meeting. 1078, 2012.
- 2) Koinuma N: Economic benefit of Helicobacter pylori screening and eradication treatment for the prevention of gastric cancer. Program and proceedings frontiers in cancer prevention research conference, American Association for Cancer Research. 98-99, 2012.
- 3) Koinuma N: The estimated cost of cancer in Japan, <http://eche2012.abstractsubmit.org/presentations/3286/>, 9th European Conference on Health Economics. 2012.
- 4) Koinuma N, Ito M: The economic burden of cancer patients by clinical stage, patient copayment and length of hospital stay. Proceedings, 71st Annual Meeting of the Japanese Cancer Association. 538, 2012.
- 5) Koinuma N: The influence of out-of-pocket expenses to treatment choices. Abstract book, 24th International Congress on Anti-cancer Treatment : 325, 2013.

- 6) Koinuma N: Proposal for the Breakdown of Increased Cancer Healthcare Cost and Its Improvement. *Jpn J Clin Oncol*. 2013. doi:10.1093/jjco/hyt015. (in press)
- 7) 濃沼信夫: 肺がん治療と医療費. 日医雑誌 (印刷中). 2013.
- 8) Kato S, Andoh H, Gamoh M, Yamaguchi T, Murakawa Y, Shimodaira H, Takahashi S, Mori T, Ohori H, Maeda S, Suzuki T, Kato S, Akiyama S, Sasaki Y, Yoshioka T, Ishioka C, (T-CORE): On behalf of Tohoku Clinical Oncology Research and Education: Safety Verification Trials of mFOLFIRI and Sequential IRIS plus Bevacizumab as First- or Second-Line Therapies for Metastatic Colorectal Cancer in Japanese Patients. *Oncology*. 83: 101-7, 2012.
- 9) 秋山聖子、佐竹宣明、石岡千加史: 分子標的薬-がんから他疾患までの治癒をめざして-II 基礎研究 分子標的薬の作用機序・薬理作用/がん関連標的分子・標的経路その他の受容体型チロシンキナーゼ (c-kit など). *日本臨牀*. 70: 36-40, 2012
- 10) 森隆弘、石岡千加史: 分子標的薬の副作用のトピックス、展望. *臨床外科*. 67: 862-868, 2012.
- 11) 丹内智美、植田健、浜野公明、李芳菁、滑川剛史、今村有佑、齋藤允孝、小林将行、柳沢由香里、高瀬峰子、小丸淳、深沢賢: 前立腺がんの地域連携クリティカルパスにおけるバリエーション分析. *泌尿器外科*. 26(1): 77-81, 2013.
- 12) Yoshino T, Mizunuma N, Yamazaki K, Nishina T, Komatsu Y, Baba H, Tsuji A, Yamaguchi K, Muro K, Sugimoto N, Tsuji Y, Moriwaki T, Esaki T, Hamada C, Tanase T, Ohtsu A: TAS-102 monotherapy for pretreated metastatic colorectal cancer: a double-blind, randomised, placebo-controlled phase 2 trial. *Lancet Oncology*. 10: 993-1001, 2012.
- 13) Kusaba H, Esaki T, Kishimoto J, Uchino K, Arita S, Kumagai H, Mitsugi K, Akashi K, Baba E: Phase I study of bevacizumab combined with irinotecan and S-1 as second-line chemotherapy in patients with advanced colorectal cancer. *Cancer Chemother Pharmacol*. 71(1): 29-34, 2012.
- 14) Ichikawa D, Komatsu S, Okamoto K, Shiozaki A, Fujiwara H, Otsuji E: Esophagogastrectomy using a circular stapler in laparoscopy-assisted proximal gastrectomy with an incision in the left abdomen. *Langenbecks Arch Surg*. 397(1): 57-62, 2012.
- 15) Nakanishi M, Kokuba Y, Murayama Y, Komatsu S, Shiozaki A, Kuriu Y, Ikoma H, Ichikawa D, Fujiwara H, Okamoto K, Ochiai T, Otsuji E: A new approach to laparoscopic lymph node excision in cases of transverse colon cancer. *Digestion*. 85(2): 121-125, 2012.
- 16) Ochiai T, Ikoma H, Murayama Y, Shiozaki A, Komatsu S, Kuriu Y, Nakanishi M, Ichikawa D, Fujiwara H, Okamoto K, Kokuba Y, Otsuji E: Factors resulting in 5-year disease-free survival after resection of hepatocellular carcinoma. *Anticancer Research*. 32(4): 1417-1422, 2012.
- 17) 市川大輔、大辻英吾: 1. 食道・胃疾患 3. 胃癌. *消化器外科学レビュー2012—最新主要文献と解説—*. 総合医学社. 東京. 15-20, 2012.
- 18) 片山佳代子、夏井佐代子、岡本直幸: 神奈川県内における乳がん罹患の地域集積性の検討. *J A C R Monograph*. 17: 51-52, 2012.
- 19) Ohe M, Yokose T, Sakuma Y, Miyagi Y, Okamoto N, Osanai S, Hasegawa C, Nakayama H, Kameda Y, Yamada K, Isobe T: Stromal micropapillary component as

- a novel unfavorable prognostic factor of lung adenocarcinoma. *Diagnostic Pathology*. 7:3-11, 2012.
- 20) Okamoto N: Use of “AminoIndex Technology” for cancer screening. *Ningen Dock*. 26 : 911-922, 2012.
- 21) Wada N, Zaki MA, Kohara M, Ogawa H, Sugiyama H, Nomura S, Matsumura I, Hino M, Kanakura Y, Inagaki H, Morii E, Aozasa K : Diffuse large B cell lymphoma with an interfollicular pattern of proliferation shows a favourable prognosis: a study of the Osaka Lymphoma Study Group. *Histopathology*. 60(6) : 924-932, 2012.
- 22) Matsui K, Ezo S, Oritani K, Shibata M, Tokunaga M, Fujita N, Tanimura A, Sudo T, Tanaka H, McBurney MW, Matsumura I, Kanakura Y : NAD-dependent histone deacetylase, SIRT1, plays essential roles in the maintenance of hematopoietic stem cells. *Biochem Biophys Res Commun*. 418:811-817, 2012.
- 23) 水木満佐央、金倉譲 : Castleman 病. 多発性骨髄腫治療マニュアル(木崎昌弘編). 南江堂. 東京. 293-299, 2012.
- 24) 水木満佐央、金倉譲 : 慢性骨髄性白血病. 内科学. 門脇孝、永井良三編. 西村書店. 東京. 1389-1394, 2012.
- 25) Fujita K, Sugiyama M, Akiyama Y, Hioki K, Kunishima M, Nishi K, Kobayashi M, Kawai K, Sasaki Y : N-Isopropyl-p-iodoamphetamine hydrochloride (IMP) is predominantly metabolized by CYP2C19. *Drug Metab Dispos*. 40:843-846, 2012.
- 26) Kanno H, Kuratsu J, Nishikawa R, Mishima K, Natsume A, Wakabayashi T, Houkin K, Terasaka S, Shuin T : Clinical features of patients bearing central nervous system hemangioblastoma in von Hippel-Lindau disease. *Acta Neurochir*. 155 : 1-7, 2013.
- 27) 執印太郎、他 : von Hippel-Lindau 病全国疫学調査における腎癌の臨床的解析. *日本泌尿器科学会雑誌*. 103:552-556, 2012.
- 28) Takeuchi H, Takei H, Futsuhara K, Yoshida T, Kojima M, Kai T, Tabei T : A multicenter prospective study to evaluate bone fracture related to adjuvant anastrozole in Japanese postmenopausal women with breast cancer : two-year interim analysis of Saitama Breast Cancer Clinical Study Group (SBCCSG-06). *Int J Clin Oncol*. 2013 Jan 12. [Epub ahead of print]
- 29) Aihara T, Tanaka S, Sagara Y, Iwata H, Hozumi Y, Takei H, Yamaguchi H, Ishitobi M, Egawa C : Incidence of contralateral breast cancer in Japanese patients with unilateral minimum-risk primary breast cancer, and the benefits of endocrine therapy and radiotherapy. *Breast Cancer*. 2012 Oct 4. [Epub ahead of print]
- 30) Gohno T, Seino Y, Hanamura T, Niwa T, Matsumoto M, Yaegashi N, Oba H, Kurosumi M, Takei H, Yamaguchi Y, Hayashi S : Individual transcriptional activity of estrogen receptors in primary breast cancer and its clinical significance. *Cancer Med*. 1 : 328-37, 2012.
- 31) Takei H, Yoshida T, Kurosumi M, Inoue K, Matsumoto H, Hayashi Y, Higuchi T, Uchida S, Ninomiya J, Kubo K, Oba H, Nagai S, Tabei T : Sentinel lymph node biopsy after neoadjuvant chemotherapy predicts pathological axillary lymph node status in breast cancer patients with clinically positive axillary lymph nodes at presentation. *Int J Clin Oncol*. 2012 May 16. [Epub ahead of print]
- 32) Ohnishi K, Nakaseko C, Takeuchi J, Fujisawa S, Nagai T, Yamazaki H, Tauchi

- T, Imai K, Mori N, Yagasaki F, Maeda Y, Usui N, Miyazaki Y, Miyamura K, Kiyoi H, Ohtake S, Naoe T: Japan Adult Leukemia Study Group Long-term outcome following imatinib therapy for chronic myelogenous leukemia, with assessment of dosage and blood levels: the JALSG CML202 study. 103(6):1071-8, 2012.
- 33) Mizuta S, Matsuo K, Maeda T, Yujiri T, Hatta Y, Kimura Y, Ueda Y, Kanamori H, Usui N, Akiyama H, Takada S, Yokota A, Takatsuka Y, Tamaki S, Imai K, Moriuchi Y, Miyazaki Y, Ohtake S, Ohnishi K, Naoe T: Prognostic factors influencing clinical outcome of allogeneic hematopoietic stem cell transplantation following imatinib-based therapy in BCR-ABL-positive ALL. Blood Cancer J. 2(5):e72, 2012.
- 34) Naoe T: Guest editorial: introducing progress in hematology in this issue. Int J Hematol. 96(2):151-2, 2012.
- 35) Gabr AG, Nishioka Y, et al.: Erlotinib prevents experimental metastases of human small cell lung cancer cells with no epidermal growth factor receptor expression. Clin Exp Metastasis. 29(3):207-216, 2012.
- 36) Nishioka Y: Malignant pleural effusion: further translational research is crucial. Transl Lung Cancer Res. 1(3):167-169, 2012.
- 37) 西岡安彦: がん分子標的治療における一体化開発の現状と展望. がん分子標的治療. 10(4): 267-275, 2012.
- 38) Furuse J, Ishii H, Okusaka T: The hepatobiliary and pancreatic oncology (HBPO) group of the Japan Clinical Oncology Group (JCOG): History and future direction. Jpn J Clin Oncol. 43(1): 2-7, 2013.
- 39) Kaneko S, Furuse J, Kudo M, Ikeda K, Honda M, Nakamoto Y, Onchi M, Shiota G, Yokosuka O, Sakaida I, Takehara T, Ueno Y, Hiroishi K, Nishiguchi S, Moriwaki H, Yamamoto K, Sata M, Obi S, Miyayama S, Imai Y: Guideline on the use of new anticancer drugs for the treatment of hepatocellular carcinoma 2010 update. Hepatol Res. 42(6): 523-542, 2012.
- 40) Furuse J, Kasuga A, Takasu A, Kitamura H, Nagashima F: Role of chemotherapy in treatments for biliary tract cancer. J Hepatobiliary Pancreat Sci. 19(4): 337-41, 2012.
- 41) 古瀬純司: 肝・胆・膵腫瘍の薬物療法-最近の進歩. 諸言、肝・胆・膵がんに対する薬物療法の動向. 腫瘍内科. 9(6): 635-640, 2012.
- 42) 古瀬純司: 抗がん剤治療の最前線: 分子標的薬剤の使用による進歩(後篇). 各臓器別の最新治療と新薬の動向. 膵がん. 最新医学. 67(9月増刊): 2230-2237, 2012.
- 2011年度
- 1) 濃沼信夫, 伊藤道哉, 金子さゆり: がんの経済難民を出さないために. 技術革新に伴う患者負担の増大にどう対処するか. 医療白書 2011年度版. 東京. 日本医療企画. 44-54, 2011.
- 2) Koinuma N, Wilking N. E, Jonsson B, Hogberg D: The burden of cancer in Japan, the United States, France, Germany, Italy, Spain, Sweden, and the United Kingdom. J Clin Oncol. 29: 2011 (suppl; abstr 1569) http://www.asco.org/ASCOv2?Meetings/Abstracts?&vmview=abst_detail_view&confID=102&abstractID=81619,
- 3) 濃沼信夫: がん薬物療法と患者負担. Critical Eyes on Clinical Oncology. 39: 11, 2011.

- 4) Koinuma N : The Economic Burden Which Affects the Medical Decisions in Cancer Patients. 8thWorld Congress on Health Economics. 2011.06. <http://ihea2011.abstractsubmit.org/presentations/2275/>
- 5) 濃沼信夫 : 分子標的治療の経済的課題. 第4回日本がん分子標的治療研究会 プログラム・抄録集. 25, 2011.
- 6) Koinuma N, Ito M : Economic burden of cancer patients receiving molecular-targeted therapy. 70th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association, Proceedings. 417, 2011.
- 7) 濃沼信夫, 伊藤道哉 : 経済的理由によるがん薬物治療の変更. 日癌治. 46(2) : 714, 2011.
- 8) Hogberg D, Koinuma N, Wilking N, Jonsson B : Use of oncology drugs in Japan compared to France, Germany, Italy, Spain, Sweden, the UK and the USA : A comparison based on data from 1999 to 2009. Journal of Public Health & Epidemiology. 3(10) : 471-477, 2011.
- 9) 濃沼信夫 : がんの医療費. 大腸がん化学療法と患者負担. 大腸がん Frontier. 4(4) : 10-20, 2011.
- 10) Koinuma N : The burden of Cancer in Japan. 19th Seoul International Cancer Symposium, Proceedings. 21-23, 2011.
- 11) Koinuma N, Ito M : Changes in cancer treatment for economic reasons. 23rd International Congress on Anti-cancer treatment, Abstract book. 301, 2012.
- 12) Wei L, Lan L, Yasui A, Tanaka K, Saijo M, Matsuzawa A, Kashiwagi R, Maseki E, Hu Y, Parvin JD, Ishioka C, Chiba N : BRCA1 contributes to transcription-coupled repair of DNA damage through polyubiquitination and degradation of Cockayne syndrome B protein. Cancer Sci. 102(10) : 1840-7, 2011.
- 13) 石岡千加史 : がん治療(5-2)分子創薬・分子標的. ライフサイエンス分野科学技術・研究開発の国際比較 2011年版. 独立行政法人科学技術振興機構研究開発戦略センター. 234-236, 2011.
- 14) Otani H, Morita T, Esaki T, Ariyama H, Tsukasa K, Oshima A, Shiraisi K : Burden on oncologists when communicating the discontinuation of anticancer treatment. Jpn J Clin Oncol. 41(8) : 999-1006, 2011.
- 15) 江崎泰斗, 小田尚伸, 牧山明資, 在田修二, 本田薫 : 外来抗癌薬治療の実際. 大腸癌 : 新規抗癌薬と集学的治療. 外来癌化学療法. 2 : 26-34, 2011.
- 16) Nagata T, Ichikawa D, Komatsu S, Inoue K, Shiozaki A, Fujiwara H, Okamoto K, Sakakura C, Otsuji E : Prognostic impact of microscopic positive margin in gastric cancer patients. Journal of Surgical Oncology. 104(6) : 592-597, 2011.
- 17) 栗生宜明, 國場幸均, 中西正芳, 村山康利, 小松周平, 塩崎敦, 生駒久視, 市川大輔, 藤原斉, 岡本和真, 落合登志哉, 大辻英吾 : 大腸がん鏡視下手術の標準化・当科における腹腔鏡下大腸切除術定型化のための取り組み. 癌の臨床. 56(9) : 633-639, 2011.
- 18) Miyagi Y, Higashiyama M, Gochi A, Akaike M, Ishikawa T, Miura T, Saruki N, Bando E, Kimura H, Imamura F, Moriyama M, Ikeda I, Chiba A, Oshita F, Imaizumi A, Yamamoto H, Miyano H, Horimoto K, Tochikubo O, Mitsushima T, Yamakado M, Okamoto N : Plasma Free Amino Acid Profiling of Five Types of Cancer Patients and Its Application for Early Detection. PLoS ONE. 6(9) : e24243, 2011.
- 19) Fujita J, Mizuki M, Otsuka M, Ezoe S, Tanaka H, Satoh Y, Fukushima K, Tokunaga M, Matsumura I, Kanakura Y : Myeloid

- neoplasm-related gene abnormalities differentially affect dendritic cell differentiation from murine hematopoietic stem/progenitor cells. *Immunol Lett.* 136 : 61-73, 2011.
- 20) 織谷健司、金倉謙：造血器腫瘍に対する分子標的治療薬同士の併用化学療法（造血器癌）。*医薬ジャーナル*. 47 : 96-100, 2011.
- 21) Ishida H, Sasaki Y : Regimen selection for first-line FOLFIRI and FOLFOX based on UGT1A1 genotype and physical background is feasible in Japanese patients with advanced colorectal cancer. *JpnJ Clin Oncol.* 41(5) : 617-623, 2011.
- 22) Inoue K, Fukuhara H, Shimamoto T, Kamada M, Iiyama T, Miyamura M, Kurabayashi A, Furihata M, Tanimura M, Watanabe H, Shuin T : Comparison between intravesical and oral administration of 5-aminolevulinic acid in the clinical benefit of photodynamic diagnosis for nonmuscle invasive bladder cancer. *Cancer.* 118(4) : 1062-74, 2011.
- 23) Takei H, Ohsumi S, Shimozuma K, Takehara M, Suemasu K, Ohashi Y, Hozumi Y : Health-related quality of life, psychological distress, and adverse events in postmenopausal women with breast cancer who receive tamoxifen, exemestane, or anastrozole as adjuvant endocrine therapy : National Surgical Adjuvant Study of Breast Cancer 04 (N-SAS BC 04). *Breast Cancer Res Treat.* 133(1) : 227-236, 2012.
- 24) Takei H, Kurosumi M, Yoshida T, Hayashi Y, Higuchi T, Uchida S, Ninomiya J, Oba H, Inoue K, Nagai S, Tabei T : Neoadjuvant endocrine therapy of breast cancer : which patients would benefit and what are the advantages? *Breast Cancer.* 18 : 85-91, 2011.
- 25) Ono T, Miyawaki S, Kimura F, Kanamori H, Ohtake S, Kitamura K, Fujita H, Sugiura I, Usuki K, Emi N, Tamaki S, Aoyama Y, Kaya H, Naoe T, Tadokoro K, Yamaguchi T, Ohno R, Ohnishi K ; Japan Adult Leukemia Study Group : BCR-ABL1 mutations in patients with imatinib-resistant Philadelphia chromosome-positive leukemia by use of the PCR-Invader assay. *Leuk Res.* 35 : 598-603, 2011.
- 26) Van TT, Hanibuchi M, Kakiuchi S, Sato S, Kuramoto T, Goto H, Mitsuhashi A, Nishioka Y, Akiyama S, Sone S : The therapeutic efficacy of S-1 against orthotopically implanted human pleural mesothelioma cells in severe combined immunodeficient mice. *Cancer Chemother Pharmacol.* 68(2) : 497-504, 2011.
- 27) Gabr AG, Goto H, Hanibuchi M, Ogawa H, Kuramoto T, Suzuki M, Saijo A, Kakiuchi S, Trung VT, Sakaguchi S, Moriya Y, Sone S, Nishioka Y : Erlotinib prevents experimental metastases of human small cell lung cancer cells with no epidermal growth factor receptor expression. *Clin Exp Metastasis.* 29(3) : 207-216, 2012.
- 28) Kindler HL, Ioka T, Richel DJ, Bennouna J, Létourneau R, Okusaka T, Funakoshi A, Furuse J, Park YS, Ohkawa S, Springett GM, Wasan HS, Trask PC, Bycott P, Ricart AD, Kim S, Van Cutsem E : Axitinib plus gemcitabine versus placebo plus gemcitabine in patients with advanced pancreatic adenocarcinoma : a double-blind randomised phase 3 study. *Lancet Oncol.* 12(3) : 256-62, 2011.
- 29) Ohmachi K, Tobinai K, Kobayashi Y, Itoh K, Nakata M, Shibata T, Morishima Y, Ogura M, Suzuki T, Ueda R, Aikawa K, Nakamura S, Fukuda H, Shimoyama M, Hotta T : On behalf of the members of the Lymphoma Study Group of the Japan

- Clinical Oncology Group (JCOG-LSG) : Phase III trial of CHOP-21 versus CHOP-14 for aggressive non-Hodgkin's lymphoma : final results of the Japan Clinical Oncology Group Study, JCOG 9809. *Annals Oncol.* 22(6) : 1382-1391, 2011.
- 30) 堀田知光 : 序〜B細胞性悪性リンパ腫治療のパラダイムシフト〜. *血液フロンティア*. 21(10) : 17-18, 2011.
- 2010年度
- 1) 濃沼信夫 : 抗癌剤治療の医療経済. *臨床外科*. 66(1) : 6-15, 2011.
- 2) 濃沼信夫 : がん患者の経済的負担の最小化に向けて. *日本癌治療学会誌*. 45(2) : 292, 2010.
- 3) 濃沼信夫、伊藤道哉 : 前立腺がんに対するPSA検診の受診行動. *日本医療・病院管理学会誌*. 47 Suppl. : 200, 2010.
- 4) Koinuma N : Long term economic burden of cancer patients. *Annals of Oncology* 21 Suppl. 8 : viii342, 2010.
- 5) 濃沼信夫 : がん患者さんの経済的負担を考えるー今、医療にできること. *Oncology Epoch*. 13 : 4-6, 2010.
- 6) Koinuma N and Ito M : How to minimize the long-term economic burden of cancer survivors. *Proceedings, 69th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association*. 372, 2010.
- 7) 濃沼信夫 : Cost of cancer. *日本がん予防学会 Newsletter*. 65 : 6, 2010.
- 8) Koinuma N and Ito M : Study on minimization of cancer patient's economic burden. *World Cancer Congress, International Union Against Cancer*. 2010.
- 9) 濃沼信夫 : 経口薬によるがん治療の患者負担. *癌と化学療法*. 37(7) : 1230-1233, 2010.
- 10) Koinuma N and Ito M : Policy application leading to the motivation of cancer screening from the economic viewpoint. *8th European Conference on Health Economics*. Helsinki, Finland. <http://eche2010.abstractbook.org/presentations/410/> 2010.
- 11) Koinuma N and Ito M : Motivation to undergo PSA test and willingness to pay of screening for prostate cancer. *Society for Medical Decision Making Europe 2010 Program and Abstracts*. 139, 2010.
- 12) 濃沼信夫 : 消化器がんの医療経済. 第49回日本消化器がん検診学会プログラム・抄録集. 122, 2010.
- 13) 濃沼信夫 : 抗がん剤の医療経済. *日本消化器病学会雑誌*. 107 Suppl. A158, 2010.
- 14) Shimbo T, Fukui T, Ishioka C, Okamoto K, Okamoto T, Kameoka S, Sato A, Toi M, Matsui K, Mayumi T, Saji S, Miyazaki M, Takatsuka Y, Hirata K : Quality of guideline development assessed by the Evaluation Committee of the Japan Society of Clinical Oncology. *Int J Clin Oncol*. 15(3) : 227-33, 2010.
- 15) Muro K, Boku N, Shimada Y, Tsuji A, Sameshima S, Baba H, Satoh T, Denda T, Ina K, Nishina T, Yamaguchi K, Takiuchi H, Esaki T, Tokunaga S, Kuwano H, Komatsu Y, Watanabe M, Hyodo I, Morita S, Sugihara K : Irinotecan plus S-1 (IRIS) versus fluorouracil and folinic acid plus irinotecan (FOLFIRI) as second-line chemotherapy for metastatic colorectal cancer : a randomised phase 2/3 non-inferiority study (FIRIS study) *Lancet Oncol* 11. 853-860, 2010.
- 16) 片山佳代子、岡本直幸 : メッシュ法でみたがん罹患・死亡と社会経済的要因の関連、地域がん登録全国協議会 JACR Monograph. 16 : 75-76, 2010.
- 17) Miyagi Y, Higashiyama M, Gochi A, Akaike

- M, Ishikawa T, Miura T, Saruki N, Bando E, Kimura H, Imamura F, Moriyama M, Ikeda I, Chiba A, Oshita F, Imaizumi A, Yamamoto H, Miyano H, Horimoto K, Tochikubo O, Mitsushima T, Yamakado M, Okamoto N: Plasma free amino acid (PFAA) profiling of five kinds of cancer patients and its application for cancer detection. *PLoS One*. 6(9) : 24143, 2011.
- 18) Ichii M, Oritani K, Yokota T, Zhang Q, Garrett KP, Kanakura Y, Kincade PW : The density of CD10 corresponds to commitment and progression in the human B lymphoid lineage. *PLoS One*. 5(9) : e12954, 2010.
- 19) Nagai T, Takeuchi J, Dobashi N, Kanakura Y, Taniguchi S, Ezaki K, Nakaseko C, Hiraoka A, Okada M, Miyazaki Y, Motoji T, Higashihara M, Tsukamoto N, Kiyoi H, Nakao S, Shinagawa K, Ohno R, Naoe T, Ohnishi K, Usui N : Imatinib for newly diagnosed chronic-phase chronic myeloid leukemia : results of a prospective study in Japan. *Int J Hematol*. 92 : 111-117, 2010.
- 20) Chihara T, Wada N, Kohara M, Matsui T, Masaya H, Maeda T, Shibayama H, Kanakura Y, Tani M, Morii E, Aozasa K : Peripheral T-cell lymphoma of Lennert type complicated by monoclonal proliferation of large B-cells. *Pathol Res Pract*. 206 : 185-190, 2010.
- 21) Ajima H, Ogata H, Fujita K, Miwa K, Sunakawa Y, Mizuno K, Ishida H, Yamashita K, Nakayama H, Kawara K, Takahashi H, Sasaki Y : Clinical and economic evaluation of first-line chemotherapy with FOLFIRI or modified FOLFOX6 for metastatic colorectal cancer. *Jpn J Clin Oncol*. 40 : 634-638, 2010.
- 22) Fujita K, Sugiyama M, Akiyama Y, Ando Y, Sasaki Y : The small-molecule tyrosine kinase inhibitor nilotinib is a potent noncompetitive inhibitor of the SN-38 glucuronidation by human UGT1A1. *Cancer Chemother Pharmacol*. 67 : 237-241, 2011.
- 23) Yamashita K, Nagashima F, Fujita K, Yamamoto W, Endo H, Miya T, Narabayashi M, Kawara K, Akiyama Y, Ando Y, Ando M, Sasaki Y : Phase I/II study of FOLFIRI in Japanese patients with advanced colorectal cancer. *Jpn J Clin Oncol*. 41(2) : 204-209, 2010.
- 24) Ishida H, Fujita K, Akiyama Y, Sunakawa Y, Yamashita K, Mizuno K, Miwa K, Kawara K, Ichikawa W, Ando Y, Saji S, Sasaki Y : Regimen selection for first-line FOLFIRI and FOLFOX based on UGT1A1 genotype and physical background is feasible in Japanese patients with advanced colorectal cancer. *Jpn J Clin Oncol*. 41(5) : 617-623, 2011.
- 25) Tamura K, Nishimori I, Ito T, Yamasaki I, Igarashi H, Shuin T : Diagnosis and management of pancreatic neuroendocrine tumor in von Hippel-Lindau disease. *World J Gastroenterol*. 16(36) : 4515-4518, 2010.
- 26) 田村賢司, 執印太郎 : mTOR 阻害剤と転移性腎細胞がん治療の進化. *Mebio*. 25(5) : 6-11, 2010.
- 27) Donev IS, Wang W, Yamada T, Li Q, Takeuchi S, Matsumoto K, Yamori T, Nishioka Y, Sone S, Yano S : Transient PI3K inhibition induces apoptosis and overcomes HGF-mediated resistance to EGFR-TKIs in EGFR mutant lung cancer. *Clin Cancer Res*. 17(8) : 2260-2269, 2010.
- 28) Van TT, Hanibuchi M, Kakiuchi S, Sato S, Kuramoto T, Goto H, Mitsuhashi A, Nishioka Y, Akiyama SI, Sone S : The therapeutic efficacy of S-1 against orthotopically implanted human pleural

- mesothelioma cells in severe combined immunodeficient mice. *Cancer Chemother Pharmacol.* 68(2) : 497-504, 2010.
- 29) Nishioka Y, Aono Y, Sone S : Role of tyrosine kinase inhibitors in tumor immunology. *Immunotherapy.* 3(1) : 107-116, 2011.
- 30) Yamada T, Matsumoto K, Wang W, Li Q, Nishioka Y, Sekido Y, Sone S, Yano S : Hepatocyte growth factor reduces susceptibility to an irreversible epidermal growth factor receptor inhibitor in EGFR-T790M mutant lung cancer. *Clin Cancer Res.* 16(1) : 174-183, 2010.
- 31) 曾根三郎 : 肺がん分子標的治療の基礎と臨床. *日本内科学会雑誌.* 99:2036-2051, 2010
- 32) 曾根三郎, 倉本卓哉, 佐藤正大, 三橋惇志, 柿内聡司, 後東久嗣, 多田浩也, 西岡安彦 : がん分子標的治療. *日本臨床.* 68:997-1006, 2010.
- 33) 埴淵昌毅, 柿内聡司, 佐藤正大, 曾根三郎 : 癌の浸潤・転移における分子メカニズムと標的分子. *呼吸器内科.* 17:212-219, 2010.
- 34) 後東久嗣, 曾根三郎 : 新薬の最近の話題 アバスチン (ベバシズマブ) - 非小細胞癌に対する新しい治療薬. *分子呼吸器病.* 14 : 59-62, 2010.
- 35) Takei H, Kurosumi M, Yoshida T, Hayashi Y, Higuchi T, Uchida S, Ninomiya J, Oba H, Inoue K, Nagai S, Tabei T : Neoadjuvant endocrine therapy of breast cancer : which patients would benefit and what are the advantages? *Breast Cancer.* 18(2) : 85-91, 2010.
- 36) Yoshida T, Takei H, Kurosumi M, Ninomiya J, Ishikawa Y, Hayashi Y, Tozuka K, Oba H, Kawanowa K, Inoue K, Tabei T : True recurrences and new primary tumors have different clinical features in invasive breast cancer patients with ipsilateral breast tumor relapse after breast-conserving treatment. *Breast J.* 16 : 127-33, 2010.
- 37) Takei H, Kurosumi M, Yoshida T, Ishikawa Y, Hayashi Y, Ninomiya J, Tozuka K, Oba H, Inoue K, Nagai S, Saito Y, Kazumoto T, Saitoh JI, Tabei T : Axillary lymph node dissection can be avoided in women with breast cancer with intraoperative, false-negative sentinel lymph node biopsies. *Breast Cancer.* 17 : 9-16, 2010.
- 38) Nagai T, Takeuchi J, Dobashi N, Kanakura Y, Taniguchi S, Ezaki K, Nakaseko C, Hiraoka A, Okada M, Miyazaki Y, Notoji T, Higashihara M, Tsukamoto N, Kiyoi H, Nakao S, Shingawa K, Ohno R, Naoe T, Ohnishi K, Usui N : Imatinib for newly diagnosed chronic-phase chronic myeloid leukemia : result of a prospective study in Japan. *Int J Hematol.* 92(1) : 111-117, 2010.
- 39) Morita Y, Kanamaru A, Miyazaki Y, Imanishi D, Yagasaki F, Tanimoto M, Kuriyama K, Kobayashi T, Imoto S, Ohnishi K, Naoe T, Ohno R : Comparative analysis of remission induction therapy for high-risk MDS and AML progressed from MDS in the MDS200 study of Japan Adult Leukemia Study Group. *Int J Hematol.* 91(1) : 97-103, 2010.
- 40) Okusaka T, Furuse J, Funakoshi A, Ioka T, Yamao K, Ohkawa S, Boku N, Komatsu Y, Nakamori S, Iguchi H, Ito T, Nakagawa K, Nakachi K : Phase II study of erlotinib plus gemcitabine in Japanese patients with unresectable pancreatic cancer. *Cancer Sci.* 102(2) : 425-431, 2010.
- 41) Furuse J, Okusaka T, Bridgewater J, Taketsuna M, Wasan H, Koshiji M, Valle J : Lessons from the comparison of two randomized clinical trials using

- gemcitabine and cisplatin for advanced biliary tract cancer. *Crit Rev Oncol Hematol.* 80(1) : 31-39, 2010.
- 42) Yeo W, Chen PJ, Furuse J, Han KH, Hsu C, Lim HY, Moon H, Qin S, Yeoh EM, Ye SL : Eastern asian expert panel opinion : designing clinical trials of molecular targeted therapy for hepatocellular carcinoma. *BMC Cancer.* 10 : 620, 2010.
- 43) Furuse J, Okusaka T, Kaneko S, Kudo M, Nakachi K, Ueno H, Yamashita T, Ueshima K : Phase I/II study of the pharmacokinetics, safety and efficacy of S-1 in patients with advanced hepatocellular carcinoma. *Cancer Sci.* 101(12) : 2606-2611, 2010.
- 44) Kudo M, Kubo S, Takayasu K, Sakamoto M, Tanaka M, Ikai I, Furuse J, Nakamura K, Makuuchi M ; Liver Cancer Study Group of Japan (Committee for Response Evaluation Criteria in Cancer of the Liver, Liver Cancer Study Group of Japan) : Response Evaluation Criteria in Cancer of the Liver (RECICL) proposed by the Liver Cancer Study Group of Japan (2009 Revised Version). *Hepatol Res.* 40(7) : 686-692, 2010.
- 45) Okusaka T, Nakachi K, Fukutomi A, Mizuno N, Ohkawa S, Funakoshi A, Nagino M, Kondo S, Nagaoka S, Funai J, Koshiji M, Nambu Y, Furuse J, Miyazaki M, Nimura Y : Gemcitabine alone or in combination with cisplatin in patients with biliary tract cancer : a comparative multicentre study in Japan. *Br J Cancer.* 103(4) : 469-474, 2010.
- 46) Chen PJ, Furuse J, Han KH, Hsu C, Lim HY, Moon H, Qin S, Ye SL, Yeoh EM, Yeo W : Issues and controversies of hepatocellular carcinoma-targeted therapy clinical trials in Asia : experts' opinion. *Liver Int.* 30(10) : 1427-1438, 2010.
- 47) Furuse J : Targeted therapy for biliary-tract cancer. *Lancet Oncol.* 11(1) : 5-6, 2010.
- 48) Matsubara J, Ono M, Honda K, Negishi A, Ueno H, Okusaka T, Furuse J, Furuta K, Sugiyama E, Saito Y, Kaniwa N, Sawada J, Shoji A, Sakuma T, Chiba T, Saijo N, Hirohashi S, Yamada T : Survival prediction for pancreatic cancer patients receiving gemcitabine treatment. *Mol Cell Proteomics.* 9(4) : 695-704, 2010.
- 49) 古瀬純司 : 現場で使用されるための抗がん剤 (分子標的薬) 開発戦略. 臨床医から見る分子標的治療薬のメディカルニーズー肝がんー. *PHARM STAGE10* : 41-44, 2010.
- 50) 古瀬純司, 鈴木英一郎, 長島文夫 : 膵癌の分子標的治療薬最前線ーRapamycinー. *肝胆膵.* 61(1) : 103-106, 2010.
- 51) 古瀬純司 : 総論. がん治療における分子標的薬の役割. *BIO Clinica.* 25 : 4-5, 2010.
- 52) 古瀬純司 : Poster Discussion Session #4026 TACE とソラフェニブの併用は, 中等度進行期肝細胞癌のアジア人患者で安全かつ有効. *新薬と臨床.* 59 : 306-307, 2010.
- 53) 古瀬純司 : 抗癌剤 肝胆膵. *消化器外科レビュー* 2010. 渡邊昌彦, 國土典広, 土岐祐一郎監修. 東京. 総合医学社. 199-204, 2010.
- 54) 古瀬純司, 鈴木英一郎, 長島文夫 : 肝癌の診断・治療. 肝細胞癌に対する分子標的薬 (ソラフェニブ以外) の開発の動向. *肝疾患Review 2010-2011.* 河田純男, 横須賀收, 工藤正俊, 榎本信行編. 東京. 日本メディカルセンター. 212-216, 2010.
- 55) 古瀬純司, 鈴木英一郎, 長島文夫 : 承認済および臨床試験中の分子標的治療薬. 2) 小分子物質 ④ソラフェニブ. 西條長宏編. *大阪. 医薬ジャーナル.* 78-83, 2010.
- 56) 古瀬純司, 鈴木英一郎, 長島文夫 : 各臓器がんの分子標的治療 : 肝がん. *がんの分子*

- 標的と治療薬事典. 西尾和人、西條長宏編. 東京. 羊土社. 218-219, 2010.
- 57) Nagai H, Ogura M, Kusumoto S, Takahashi N, Yamaguchi M, Takeyama N, Kinoshita T, Motoji T, Ohyashiki K, Kosugi H, Matsuda S, Ohnishi K, Omachi K, Hotta T: Cladribine combined with rituximab (R-2-CdA) therapy is an effective salvage therapy in relapsed or refractory indolent B-cell non-Hodgkin lymphoma. *Euro J Haematol.* 86 : 117-123, 2010.
- 58) Tobinai K, Ogura M, Itoh K, Kinoshita T, Hotta T, Watanabe T, Morishima Y, Igarashi T, Tereuchi T, Ohashi Y: Randomized phase II study of concurrent and sequential combinations of rituximab plus CHOP (cyclophosphamide, doxorubicin, vincristine and prednisolone) chemotherapy in untreated indolent B-cell non-Hodgkin lymphoma: 7-year follow-up results. *Cancer Sci.* 101(12):2579-2585, 2010.
- 59) Watanabe T, Kinoshita T, Itoh K, Yoshimura K, Ogura M, Kagami Y, Yamaguchi M, Kurosawa M, Kasai M, Tobinai K, Kaba H, Mukai K, Nakamura s, Ohshima K, Hotta T, Shimoyama M: Pretreatment total serum protein is a significant prognostic factor for the outcome of patients with peripheral T/natural killer-cell lymphomas. *Leukemia & Lymphoma.* 51(5) : 813-821, 2010.
- 60) Itoh K, Kinoshita T, Watanabe T, Yoshimura K, Okamoto R, Chou T, Ogura M, Hirano M, Asaoku H, Kurosawa M, Maeda Y, Omachi K, Moriuchi Y, Kasai M, Ohnishi K, Takayama N, Morishima Y, Tobinai K, Kaba H, Yamamoto S, Fukuda H, Kikuchi M, Yoshino T, Matsuno Y, Hotta T, Shimoyama M: Prognostic analysis and a new risk model for Hodgkin Lymphoma in Japan. *Int J Hematol.* 91 : 446-455, 2010.
- 61) 堀田知光: 未承認薬のドラッグ・ラグの解消に向けて. *腫瘍内科.* 5(6) : 658-664, 2010.
- 62) 堀田知光 (監修): 造血器腫瘍取扱規約. 日本血液学会 日本リンパ網内系学会 (編). 金原出版. 東京. 2010.
2. 学会発表
2012年度
- 1) Koinuma N: The burden of cancer in Japan. American Association for Cancer Research Annual Meeting 2012. Chicago, USA. April 3, 2012.
- 2) 濃沼信夫: 高額抗がん剤をどう使うか. 第112回日本外科学会. 幕張、千葉. 2012. 04.
- 3) Koinuma N, Ogata T: Can the mass screening of *Helicobacter Pylori* infection be acceptable socio-economically for the prevention of gastric cancer? 14th Biennial Society for Medical Decision Making European Meeting, Oslo, Norway, June 11, 2012.
- 4) Koinuma N: The estimated cost of cancer in Japan, 9th European Conference on Health Economics, Zurich, Switzerland, July 21, 2012.
- 5) Koinuma N, Ito M: The economic burden of cancer patients by clinical stage, patient copayment and length of hospital stay. 71st Annual Meeting of the Japanese Cancer Association. Sapporo, September 21, 2012.
- 6) Koinuma N: Economic benefit of *Helicobacter pylori* screening and eradication treatment for the prevention of gastric cancer. Frontiers in Cancer Prevention Research Conference, American Association for

- Cancer Research, Anaheim, California, USA. October 17, 2012.
- 7) 濃沼信夫: 実態調査と国際比較にみる分子標的治療の患者アクセス. 第50回日本癌治療学会. 横浜. 2012. 10.
 - 8) Koinuma N: The influence of out-of-pocket expenses to treatment choices. 24th International Congress on Anti-cancer Treatment, Paris. February 6, 2013.
 - 9) 石岡千加史: 消化器がんの分子標的薬と最新治療. 市民公開講座 第16回日本がん分子標的治療学会学術集会. 北九州. 2012. 06.
 - 10) 石岡千加史, 添田大司, 下平秀樹: 大腸がんにおけるキナーゼ阻害療法と薬剤耐性. 第8回トランスレーショナルリサーチワークショップ-キナーゼ阻害薬によるがん治療の革新-. 東京. 2013. 01.
 - 11) 植田健: 千葉県がんセンターにおける地域連携パスの取り組み (講演). 第53回埼玉県泌尿器科医学会学術集会. 浦和市. 2012. 07.
 - 12) 齋藤允孝, 吉田香保里, 李芳菁, 滑川剛史, 宮坂杏子, 今村有佑, 小林将行, 小丸淳, 深沢賢, 植田健: 根治的前立腺全摘除術クリティカルパスのバリエーション分析 (口演). 第97回千葉泌尿器科集談会. 千葉市. 2012. 06.
 - 13) 植田健: がんになって感じたこと. 癌治療学会 イブニングセミナー. 第50回日本癌治療学会学術集会 (講演). 横浜市. 2012. 10.
 - 14) 江崎泰斗, 瀬戸貴司, 平井文彦, 在田修二, 野崎要, 牧山明資, 米谷卓郎, 藤本千夏, 濱武基陽, 武岡宏明, 施曉瑾: 進行固形悪性腫瘍患者を対象とした AZD7762 の単独静脈内投与及び週1回標準量ゲムシタピンとの併用投与時の安全性, 忍溶性及び薬物動態を検討する非盲検, 用量漸増, 第I相試験. 第50回日本癌治療学会学術集会. 横浜. 2012. 10.
 - 15) 岡本直幸, 片山佳代子, 夏井佐代子, 三上春夫: がん患者の医学的フォローは何年後まで必要か? 地域がん登録全国協議会. 第21回学術集会. 高知. 2012. 06.
 - 16) Takei H, Kubo K, Matsumoto H, Hayashi Y, Kurozumi S, Tsuboi M, Saito T, Hamahata A, Inoue K, Nagai S, Oba H, Kurosumi M: Skin sparing mastectomy or nipple areolar complex (NAC) saving mastectomy. Controversies in Breast Cancer Surgery (SP06-1). 10th International Conference of the Asian Clinical Oncology Society. Seoul, Korea. 2012. 06.
 - 17) 武井寛幸: Heterogeneity から考えるエストロゲンレセプター陽性乳癌の治療戦略. モーニングセミナー3. 第20回日本乳癌学会学術総会. 熊本. 2012. 06.
 - 18) Nishioka Y, et al.: Antitumor effects of anti-podoplanin antibody NZ-1 against malignant mesothelioma. 14th International Biennial Congress of the Metastasis Research Society. Australia. 2012. 09.
 - 19) 西岡安彦: がんと免疫: 治療法としての現状と展望. 市民公開講座「ベッドサイドから生まれる未来のがん治療研究 -チーム徳島大学の取り組み-」. 徳島. 2012. 11.
 - 20) 西岡安彦: 難治性呼吸器疾患の分子病態解明と新規治療薬法の開発. 第246回徳島医学会学術集会. 徳島. 2013. 02.
 - 21) 古瀬純司: ワークショップ13. 肝細胞癌に対する分子標的薬開発の基礎から臨床. まとめと解説. 第48回肝臓学会総会. 金沢市. 2012. 06.
 - 22) Furuse J: Hepatocellular carcinoma: Present treatment strategy in Japan. ESMO / JSMO Joint Symposium. ESMO 2012. Abstr #279. Vienna. 2012. 10.

2011年度